

2017年の8月の東京の天気は「降水連続日数21日間を記録」であったが、2018年夏、東京は7月から8月にかけては猛烈に暑かった。最高気温が30度以上の真夏日となった日は、7月では27日、8月は25日あるという（35度以上の猛暑日含む）。

一方、6月28日から7月8日にかけて西日本を中心に記録的豪雨が続いた。多くの地域で河川の氾濫、土砂災害が発生、人的被害や住宅被害に加えて製造業の生産停止、小売店舗の休業が広がるなど、人々の生活、企業活動、地域経済に多大な影響を与えた。山陽道、中国道、九州道など多くの高速道路で通行止め発生、ヤマト運輸は京都、岡山、広島で宅配便の受付を停止、佐川急便と西濃運輸も東日本からの九州向け貨物の受託を停止したという。JR貨物も山陽本線などの線区が被害を受け、鉄道輸送の運転停止は長期間に及んでいる。トラックによる代行輸送は一部行われたが、大動脈の寸断で農水産品など多くの貨物が停滞した。大変大きな被害である。

東日本大震災を契機にBCP（事業継続計画）を策定する企業は多くなってきたが、洪水対策としては未だ十分とはいえず、早急な取り組みが必要だろう。

『物流問題研究67号(2018年夏)』特集の部は、「物流業界の人手不足 ～どう対処していくか～」をテーマとした。人手不足感は全産業に広がっており、中でも物流業界は厳しい水準といわれている。例えば、トラック運送業では有効求人倍率は約2.8倍まで上昇している。2割労働時間が長く、2割給与水準が低い産業、どうやって人材を業界に呼び込むか、今まさに真剣に考えなければいけない時だろう。

特集の部では、業界に精通する様々な立場の方に、人手不足の対処について実態や考え方を紹介していただいた。執筆者の皆様には、この場を借りてお礼を申し上げたい。

本誌は本学ホームページに掲載しており、誰でも閲覧できる。「知の共有」の場として少しでも役立てばと考えている。

なお、本誌の掲載論文ならびにロジスティクス産学連携コンソーシアムのタイムリーな活動情報も、ホームページにも掲載しており、是非お立ち寄りいただければ幸甚である。

<http://www.rku.ac.jp/about/data/organizations/laboratory.html>

小野